

宿縁

七月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗

本願寺派

中原寺

TEL〇四七―三七二一〇二九二
FAX〇四七―三七二一〇二六二

南無阿弥陀仏から

教えてもらおう



語って宗教や信仰に勧誘する人たち。だから怖いもの、押しつけられて迷惑のものという負のイメージがあるようです。

仏教は生活苦からの解放ではなく、人生苦からの救いです。ここをしつかりと抑えておかないと、いつまでたっても私にとって宗教は眺めものに終わってしまいます。

私の歩む人生の軸になるもの、その軸を「ただ念仏しなさい」と教えてくださったのは、仏のさとりを説かれたブツダ釈尊であり、すべてのものの人生道の依り所と教えてくださった親鸞聖人の教えを浄土真宗といいます。

本来名字(苗字)というのは誰にもあつたものではありません。名字は一族を表すものでその個人を表すのは名前です。「姓は車、名は寅次郎！」あの寅さん映画でお馴染みのセリフです。
名前には必ずそれを付けてくれた人の願いがかけられています。

さて、世間はいま宗教離れが進んでいきます。宗教を語ることもさえも「おかしな人たち」と、特別扱いしている風潮さえ感じられます。たしかに自分の宗教や信仰を声高に人に

念仏は「南無阿弥陀仏」と「阿弥陀仏」の名に「南無」の二字がついています。「南無」とは、敬うとか大切に思うという意味です。「南無しなさい」「大事にしなさい」といわれることも含めて浄土真宗は「南無阿弥陀仏」と念仏するわけです。この六字を「名号(みょうごう)」といいます。ただ阿弥陀仏だけではなく「南無(なむ)」という、それを敬い尊ぶという意味が合わさって名号であり、それをさらに、「本尊(ほんぞん)」と呼んでいるわけです。

あつても自分とつながってきません。自分に関係ないはたらきは、無いに等しいのです。「南無阿弥陀仏」という名前は、どういう「はたらき」に対してついた名前なのか。それははたらきを知らないで、「南無阿弥陀仏」がいいとか悪いとかいってみても始まりません。ところが、それを知りもしないで、「南無阿弥陀仏したぐらいで何がどうなる」とか、「南無阿弥陀仏なんてバカらしい」と思ってしまう人がたくさんいます。実は南無阿弥陀仏の教えについてよく知らない者がそういうことをいうのはおかしな話です。よく知らない者が、それをいいとか悪いとかいえるはずがないのですが、どういうわけか、そのように思う人が少なくありません。でもその気持ちにはわからないわけでもありません。かりに「南無阿弥陀仏」と口に出してみても、何もないでしょう。気持ちよくなるわけでもないし、お金が儲かるわけでもない、「念仏などというつまらないもののどこがいいんだ」と思うのが関の山です。やってみたら、「どうっていいことないじゃないか」となることは目に見えています。だから「念仏なんて自分には関係ない」と考えるのも無理がありません。

私たちが、相手に知られたら嫌だということ、いつばい持っています。人にいえないことがいっぱいあるのです。でも、阿弥陀仏だけは、どんなことを聞いても、それを理由に救わないとはいわれない、それがはっきりしているから、安心して自分の本當の姿に、向き合うことができるのです。他人の前では隠し通していたことを、いたくなくないことを、そういうことと向き合うことができる場を、保証するのが「南無阿弥陀仏」に託されたはたらきなのです。そのはたらきに出会うということは、どんな自分であっても排除されないということに気づくということです。それを「撰取不捨(せんしゆふしや)」といいます。「おさめとって捨てない」、これが私たちにかけられた阿弥陀仏の根本の願い(本願)の一番大事なところです。自分のありのままの姿に向き合える、自分が無条件に受け入れられる、そういうはたらきに出会う時、私たちは本當に心が開かれるのです。

【寺灯雑記】

○門信徒会役員会を開く

6/16

常例法座の後、今年度第2回門信徒会役員会が15名の役員が出席して開かれました。主な議題では①今年度予算編成の件②今夏ファミリーパーティーの件③同じく今夏の子ども合宿の件等で意見が交わされました。

①と③においては、事業費の部の行事費に關し、青少年育成の必要性から花まつり、子ども合宿などの教化の重要性を認識し、また門徒総代や役員の意識を高めるため研修会費をとにも増額することが決まりました。

そして③の中原寺ファミリーパーティーについては地域への呼びかけも行なっていくべきとの意見が出され、会場準備の効率化を図り軽便なテントの購入、テーブル等を増やす経費を昨年の設営費予算の余剰金を回すことなどとなりました。

門信徒会活動への皆さまのご理解と一層のご協力をお願い致します。

○楽しかった1日バス親睦旅行

6/18

今年の親睦旅行は小江戸として近年人気が高い川越への1日バス旅行となり35名が参加しました。

最初は川越市内の浄土真宗本願寺派寺院「光西寺」を参拝しました。山門からきれいに整備された参道を歩き、ご住職夫妻やご門徒のお出迎えをいただき本堂に参りました。

一行は中原寺住職の調声で「讚仏偈」をお勤めしたあと、近藤哲城ご住職からお寺の縁

起とご法話をお聞きしました。一休さんと蓮如上人の弥陀の浄土にまつわるやりとりの話の面白さが印象的でした。そして川越名物のお菓子とお茶の心温まる接待を受けお寺をあとにしました。

昼食は老舗の料理屋「ささ川」でおいしい料理とお酒を堪能しながら親睦旅行7名の初参加者の紹介と挨拶がありました。その後は蔵の町(時の鐘、お菓子横丁など)を自由に散策、買い物などを楽しみました。最後に徳川家ゆかりの喜多院を訪れ、国の重要文化財や五百羅漢石像、また広い庭園の美しさや初夏のたたずまいを味わいました。

梅雨の季節に入っただけの旅行でしたが天候に恵まれ、気持ち良い1日を過ごすことができました。

○「みのり会」の研修公開講座に参加

6/29

千葉県教育会館大ホールで午前中行なわれた千葉組仏教婦人会「みのり会」の研修会では、今は珍しくなった節談説教と雅楽の演奏を聞きました。

節談説教とは、特に浄土真宗において仏教に馴染みのない聴衆に伝わりやすくするために話す説教に抑揚がつき、人びとの情念に訴えかけるように工夫されたもので、浪曲、講談、落語などの話芸の母体となったものだそう、古くから行われ昭和期においてもこうした説教があったといわれています。

雅楽は、中国朝鮮半島を経て日本で花開いた伝統的な音楽の一つで世界最古のオーケストラといわれているそうです。日本仏

教の儀式にも取り入れられて、笙や横笛、鞆鼓などの荘厳な響きに魅了されます。この度の節談説教と雅楽の演奏は組内僧侶の出演でとても良い企画でした。

午後からは公開講座で、講師にお迎えした釈徹宗師により「『歎異抄』を学びましょう」という講座でお話がありました。歎異抄の一節一節は親鸞さまのお気持ちのこもったお聖教として多くの人に親しまれ、今、私たちがまさかの事態になったとき、解決が大変難しい「死にきる道筋」をどう生き抜くか?を「序文」と「第2章」を通してお話されました。当寺からは19名が参加し、意義あるご縁をよるこびました。

○「社会を明るくする運動」で講演

7/3

市川浦安地区保護司会が主催した「社会を明るくする運動」公開講演会が八幡市民会館全日警ホールで開催され、当寺前住職が「教誨師からみた犯罪者の心理」の講題で話を致しました。

『社会を明るくする運動』は「犯罪や非行を防止し立ち直りを支える各地域のチカラ」として、地域に理解を深め犯罪のない明るい社会を築くことを目的に実施している全国的な運動です。

社会性が欠如しコミュニケーションが薄くなっている今日、私たちは仏教者として無関心無関係を脱出し、それぞれが社会をつくる一員としての自覚と行動を新たにすべきでしょう。教誨師として長年犯罪者と関わっている立場からの前住職の講演はどのような参加者に伝わったでしょうか。

【法要・法座・行事案内】

○子育てサロン 七月八日(月) 十一時
子どもたちと保護者の交流の場

○いのちの居場所を考える会
七月十一日(木) 十時

共存の原理をどう生かすかの座談会

○常例法座 七月二十日(土) 一時
講師 増田廣樹師(茨城県清心寺)

○ファミリーパーティー実行委員会
七月二十日(土) 三時半

☆第28回ファミリーパーティー
七月二十八日(日) 一時半

第1部 演芸(紙切りと声帯模写)

出演—三遊亭絵馬、丸山おさむ
第2部 模擬店、盆踊り、抽選会、ゲーム

☆孟蘭盆会法要 八月十一日(日) 十時

(全戦没者追悼法要併修)
講師 松岡満優師(富岡市蓮照寺)

【休講】七月の「教行信証を学ぶ」

【お願い】第二墓地参拝と駐車場利用者へ
管理上のため入口の扉は出入時に各自で開閉してください。

【七月の掲示板のことば】
無関心、無関係が 罪をつくる